

《節分》

2月3日の節分の日、一年の災いを払う厄落しとして小規模ホールで豆まきを行いました。

鬼に扮したスタッフに向かって落花生を利用者様に投げてもらい、邪気を追い払いました。「鬼は外〜!!」と声をあげられながら鬼に向かって力強く豆を投げつけていらっしやいました。

鬼が退散した後は、福の神が登場し、落花生、甘納豆、チョコレートの入った袋を一人一人の利用者様に渡して回りました。

豆まきの後は、自分の年の数程となるとなかなか難しいですが、その場でみなさんご一緒に豆を召し上げて頂き、今年一年の無病息災を願いました。

みなさんにたくさんの福がおとずれますように・・・



昼食メニュー：巻き寿司（ちらし寿司）南瓜煮 煮豆 清汁 果物



ゆりの里だより

第70号

平成27年3月

- ・小規模多機能の家
- ・グループホーム
- ・高齢者専用住宅
- ・宅老所さずなの里
- ・訪問介護ゆりの里

ゆりの里
佐土原町下田島 19658-1
TEL0985-72-0680
(ホームページを宮崎市ゆりの里で検索頂けます)

やさしい時間（とき）の流れる、絆強い極楽の園
人情・心通わす第二の家
ゆりの里

むかし話でひとやすみ

宮崎県の“ちょっとだけ”おもしろい昔話です。黙読で、または、口に出して読んでみて下さい。声を出して文章を読むと、脳の血流を増加させ、記憶力、創造力を高めるのに効果的で、高齢者の方の脳も活性化すると言われています。認知症の予防改善法としても成果を上げているそうです。

きつちよむ話（天のぼり）

むかーし、むかし。あるところに、きつちよむさんちゆう人が、おったげな。ある日のこと、家の人から、畑の麦ふみをたのまれたげな。じゃけんど、きつちよむさんは、よだきして、よだきしてたまらんかった。

そこで、何を考えたか、きつちよむさんは、畑のまん中に、長さが五間（約十メートル）あまりもある青竹を、五、六本かついできたと。そして、そん一本を地面につき立てたげな。

村の人たちは、なんじゃろうかと思いながら、畑の中へはいってきたと。すると、きつちよむさんは、みんなにむかって、

「おらあ、今かり天にのぼるばい。」

と、大声でおらんだげな。

それを聞いた村の人たちは、ひったまがって、

「きつちよむさん、あぶねえばい。やめない、やめない。」

といて、とめたと。じゃけんど、きつちよむさんは、そげなことには、おかまいなく、どんどんひやらひやら、のぼっていったと。一本の竹をのぼり終わると、べつの一本を、つぎたしながら、どんどんひやらひやら、のぼったげな。

とうとう、きつちよむさんのすがたは、雲にかくれて見えなくなってしまうたげな。

さあ、おおごと。村の人たちは、空を見上げて、

「きつちよむさーん。もう、おりてきなーい。」

と口々にいいながら、畑の中をうろうろ歩きまわったげな。

いっときして、きつちよむさんが、畑へおりてみると、畑の麦は、しっかりふみつけられていたげな。おかげで、麦ふみをせんですんだげな。



読みがたり

宮崎のむかし話 より

お礼とお知らせ

○ご家族様はじめ地域の方々の手作りの野菜、古紙、古布等あらゆる温かいお心遣いに心から厚くお礼申し上げます

○ゆりの里ではノーマライゼーションを運営方針に掲げ、人が人として生きる日々の生活を大事にする中、身の安全、ゆりの里の御利用者様であることの証として、御利用者様は腕にプレスレットを装着されています。

もしも何らかの事態の折には地域の皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○小規模多機能の家（通い・宿泊・訪問のサービスを自由に組み合わせ利用者様の生活にあわせた柔軟な支援をいたします）グループホームに1室空きがございます。見学・ご相談等、お気軽にお越しください。

TEL 72-0680

作成者：宅老所 長友